9　擲禅杖　山崎朝雲　一点

明治四十三年（一九一〇）
木彫　二六・五×三八・〇×六〇・〇

鎌倉時代に曹洞宗の開祖となった道元禅師にまつわる伝説を木彫で表した作品である。その伝説とは、中国で修行していた道元禅師が道場へ向かう途中で虎に遭遇し、手に持っていた杖で虎を追い払ったというもので、その際、禅師の投げた杖が龍に変じて虎を撃退した。朝雲は、龍の顔に変化した杖が真っ直ぐに飛んできたのに驚いて反転する虎の様子（次頁図版参照）を、粗い彫り跡を残す手法などで逆立つ毛並みを表しながら、躍動感のある姿形にまとめている。『昭和美術百家選　第二十三編　山崎朝雲』（美術日報社、昭和十四年）によれば、明治二十五年に制作した「龍虎相搏」が農商務省の前田正名から激賞され、外国人に買い上げられたという。朝雲が博多から京都へ出るきっかけとなったこの作品は、自宅の裏庭で見た猫と蛇の闘争を龍虎になぞらえて制作したものだった。本作の猫のようにも見える虎は、もしかするとこの「龍虎相搏」以来、朝雲が得意とした造形なのかもしれない。明治四十三年九月の第二回日本彫刻会展覧会に出品され、そののち昭和三年一月に侯爵黒田長成より献上された。黒田長成は朝雲が東京に出て高村光雲に師事していたときの支援者である。

山崎朝雲（一八六七～一九五四）は博多で代々陶工を営む家に生まれ、幼時から博多人形に親しみ、仏師の元で木彫を学んだ。京都時代を経て、東京へ出ると高村光雲に弟子入りして木彫技術を完成させた。独立後は数々の展覧会で高い評価を得て、帝国芸術院会員、帝室技芸員などを歴任した。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

虎・獅子・ライオン
―日本美術に見る勇猛美のイメージ
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年七月十七日発行

© 2010,The Museum of the Imperial Collections